



ネイチャーセンター『ふおれすと鉱山』オープン(4月25日)



親子こいのぼりづくり(4月13日)

## 2003年に向けて

経済環境はなお一層の厳しさを増し、なかなか改善の方向を見せないまま、新年を迎えます。そうした厳しい経済状況の中で、登別商工会議所青年部は、昨年30歳を迎えました。

昨年の9月29日、亀田記念公園で、準備も雨、本番も雨、おまけに後片づけも雨という最悪のコンディションの中、『鬼フェスタ』は決行されましたが、逆に、ご協力をいただいた登婦連、観光協会、福祉団体、物産会、全道各地区の青年部のみなさん、姉妹都市白石市の仲間のみなさんなど、参加されたみなさんの懸命のがんばりが一体感を強くさせ、スムーズなイベントの進行につながりました。ご参加をいただいた市民の方々も、止むことのない雨の中、最後までおつきあいをいただき、心に残る胸温まる記念イベントとして終了することができました。



鬼フェスタ

現在、こうしたみなさんのご好意に少しでも報いるべく、『のぼりべつMap』の制作に取り組んでおりますので、こちらでのご協力もよろしく願います。

確かに、厳しくつらい1年ではありましたが、今年31歳になった青年部は、私たちの成長を支えてくださったみなさまへの感謝を忘れず、若者らしい感性で、にぎわいとふれあいにあふれた、「ここから離れたくない、やっぱりふるさと登別だべさ」の活動に努めていきたい、と思っております。

ついでには、平成18年の2月、おらが自慢の登別に全国青年部の会員1千200人が集まれるよつ、『全国会長研修会』の会場誘致に立候補をし、ぜひとも、その権利を獲得していきたい、と張り切っております。

いつも温かい目で私たちを見守ってくれているみなさま、心を込めて、新年のごあいさついたします。登別にとって良き年でありませうように。

(常盤町/川田弘教さん・登別商工会議所青年部会長)

## アイヌ文化や歴史にみなさんの関心と理解を

ウタリ協会登別支部では、儀式(カムイノミ)や木彫などの伝承

活動のほか、市民を対象にした刺しゅう教室とそれらの作品の展示会やアイヌ語教室などを鉄南ふれあいセンターで行っております。また、全国の市民が加入している『知里真志保を語る会』と共に講演会活動や出版活動など幅広い活動を行っております。

昨年に、知里幸恵の『アイヌ神謡集』初版本を復刻出版しましたところ、大変好評でした。「その昔此の廣い北海道は」で始まる序文と「銀のしずく降る降るまわりに」というフレーズだけが広く知られているのですが、内容はあまり知られていません。より多くの市民がこの本をご覧いただき、幸恵の思いに少しでも触れていただきたいと思えます。



『アイヌ神謡集』初版の復刻本

本年は、知里幸恵の生誕百年を迎えますが、これを契機により一層アイヌ文化や民族の歴史などに多くの市民が感心を持ち、理解が進むことを願っています。

(新川町/小坂博宣さん・ウタリ協会登別支部事務局長)